UNIVERSITY · KEIOGIJUKU
18



二立目





二段目





三のは


三の切
白太夫
三十五
梅王
こわ丸
松王
源蔵
梅丸
八重
八重
千代
みよし
十松
十蔵
千代
桑代


四の切
松王
千代
みよし
十松
十蔵
千代
桑代
三十五
梅王
こわ丸
源蔵
梅丸
八重
八重

序幕





中幕





常磐津連中

常磐津若太夫
常磐津文字太夫
常磐津駒太夫
常磐津福太夫
常磐津登喜太夫

三味線方

岸沢市造
岸沢金芳
岸沢八五郎
岸沢蓮助
岸沢帝太郎




天保五年





勝敗分三の内



三の内



狩場山の口



山の口




二十良
山名高
二十良
松之
碧高
右門
御免
おさく
張子
鶴指南所
おきく
おさく
弥兵衛
十八


松
料理
春二
玉江
長持
おさく
張子
三吉
栄松
一本
弥兵衛
三次



雑話

うそりとあのうのうそむけ

常磐津

常磐津節名鑑 小文太夫 門佐松美三 洋澤式流

日義長美弦 洋澤三爲

日春松美弦 洋澤言助

日嶋太夫 洋澤言助 門八



天保七年
丙申春

狂言
化者















御當地四名物狂言



淨瑠璃

道行情容賀

（みちゆきさかけさんどうがさ）

當春狂言大入大吉日

桜花爛漫

當春狂言小栗大吉日

當春狂言細工大吉日

新口村の段

三味線

澤沢武佐

澤沢清八郎

澤沢安右衛門


虎ヶ石

大日建久



源対平面の場



弁慶曩日序



日久引返




三重
井
筒


三重井筒


諸国状

大切



亜



亨




国芳画


天保十四卯年
天保十五甲辰年
狂言
作者









吉良の場



浪宅の場



茶屋漫







大切



行

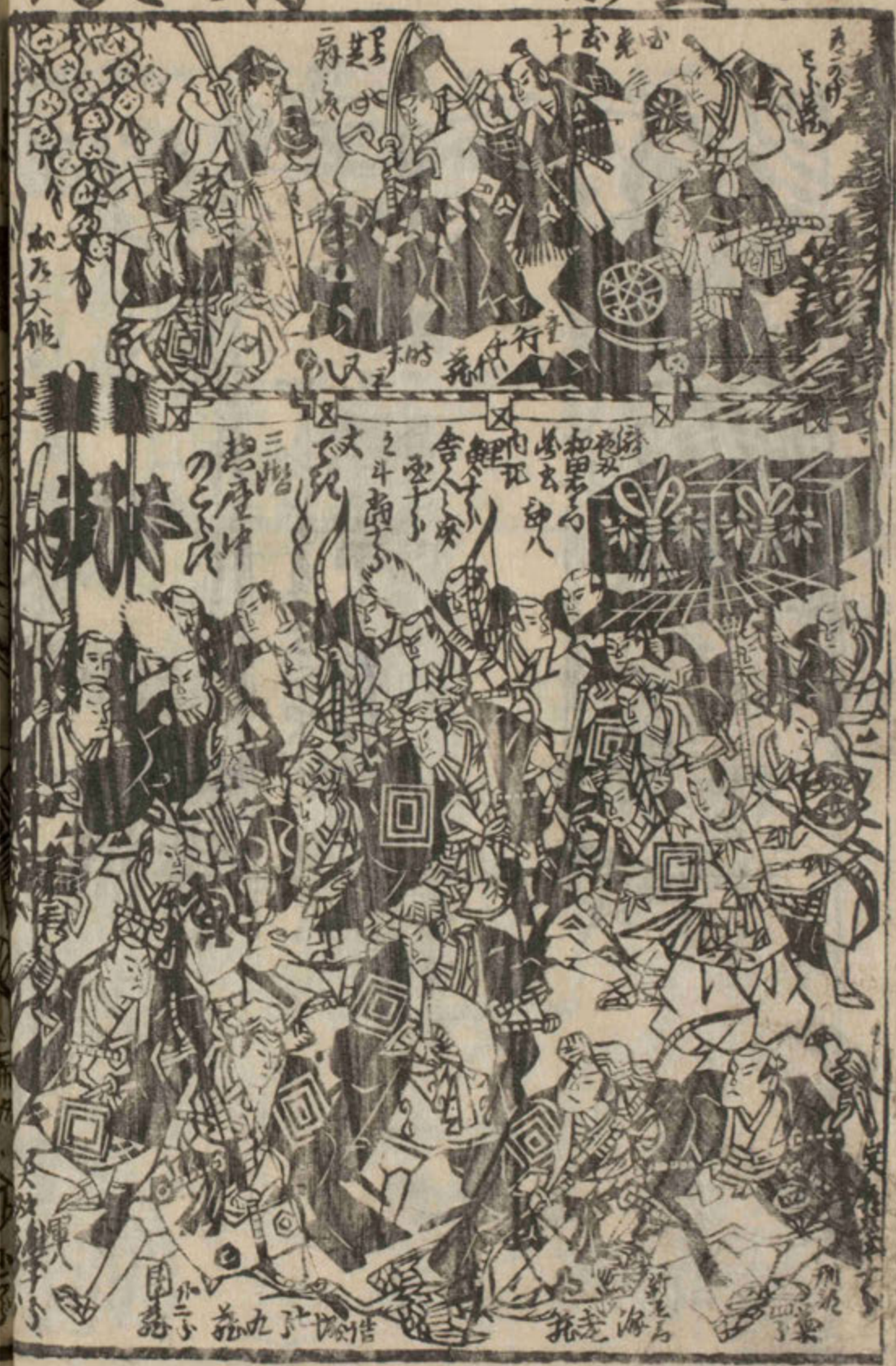


天保十四卯年
九月吉日

妖者

[illegible]

[illegible]
[illegible]屋










御影堂
扇屋
三の丸
三平
大谷
海老蔵
栄三郎


入門

間巻の場





逆艪の湯



曽掛村の湯



道中双六の内






松竹梅
三月春日詣
三月ぞろ見
四月月の歌日
四月の花盛
常陸帯津守太夫
三弦 岸澤式佐
清元 澤山八郎
岸澤三蔵


十月神楽
十二月雪の石橋
竹本イ菱太夫
竹本イ陽太夫
三弦 野沢喜佐
七月七夕祭
六月やとり























天保十年
己亥春

雪譜

序言

雪譜

ちよだのかみ あらきの春まつの
おりの家




市村座
大吉利






大安多刻り
宮谷


大見得



大切 義仲初陣 四天王誉

ことのたぐさきくことゆふぐく





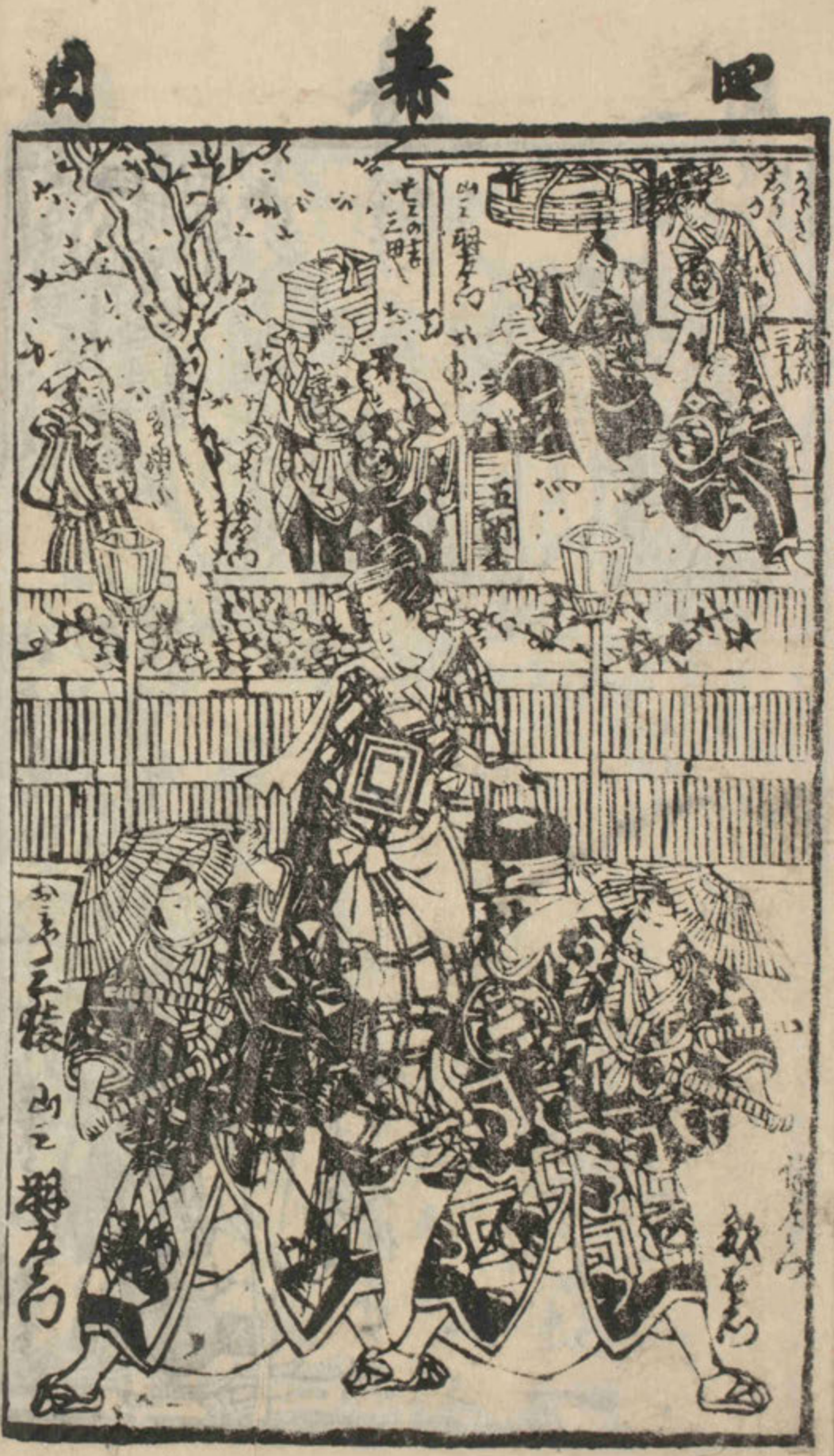















ぜんぷくの春のよろこび


天保十四卯年
二月大ミ日より
妊婦
他家

二建目一の谷 弁切二の口









妹背山四の切



妹背山四の切

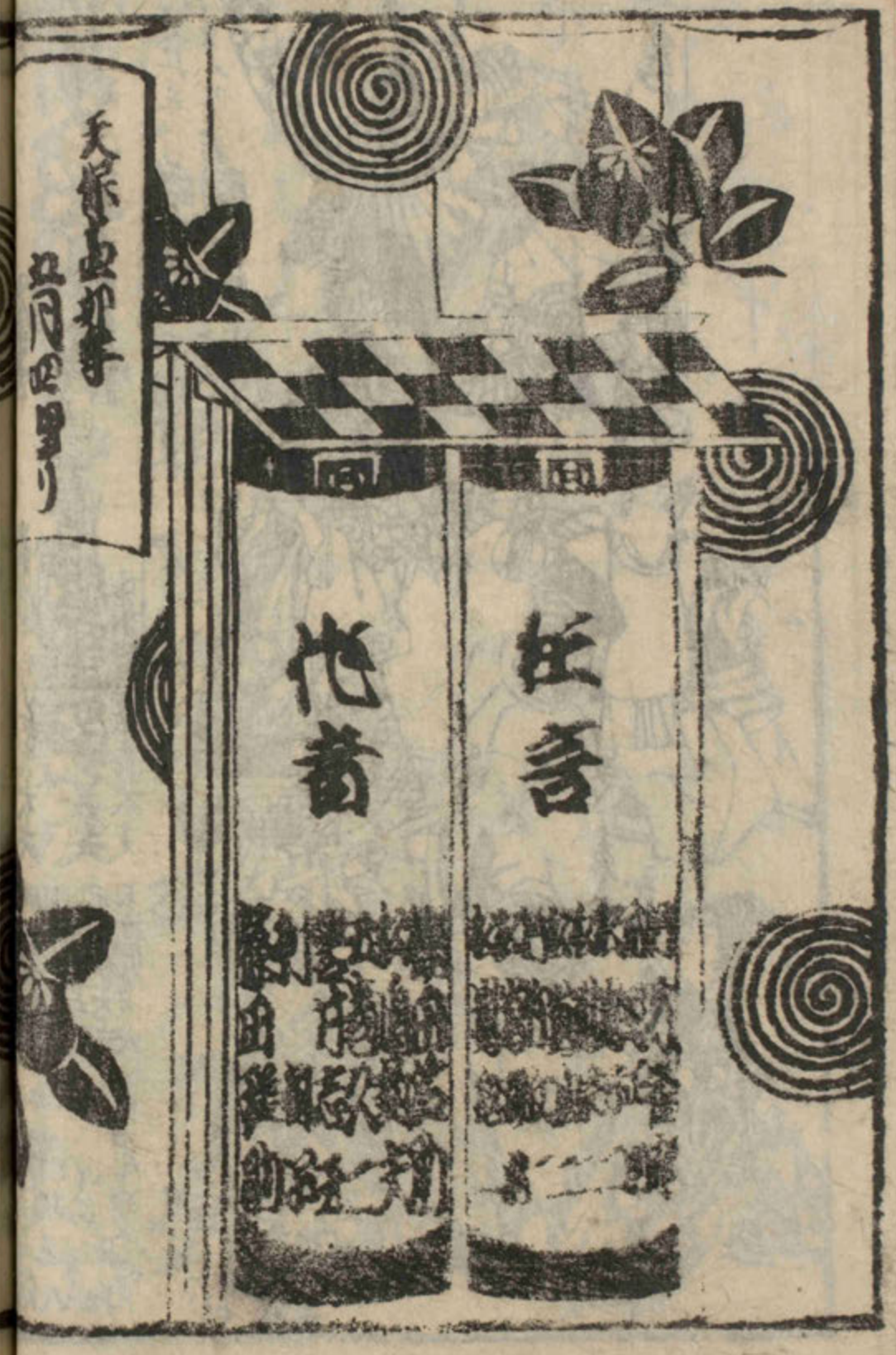


目書






うそをのだうち
馬鹿噺


天狗の出来事
五月廿四日
仕舞
花前













浄瑠璃英雄伝

常盤御曹司義朝公

常盤御曹司義朝公

常盤御曹司義朝公

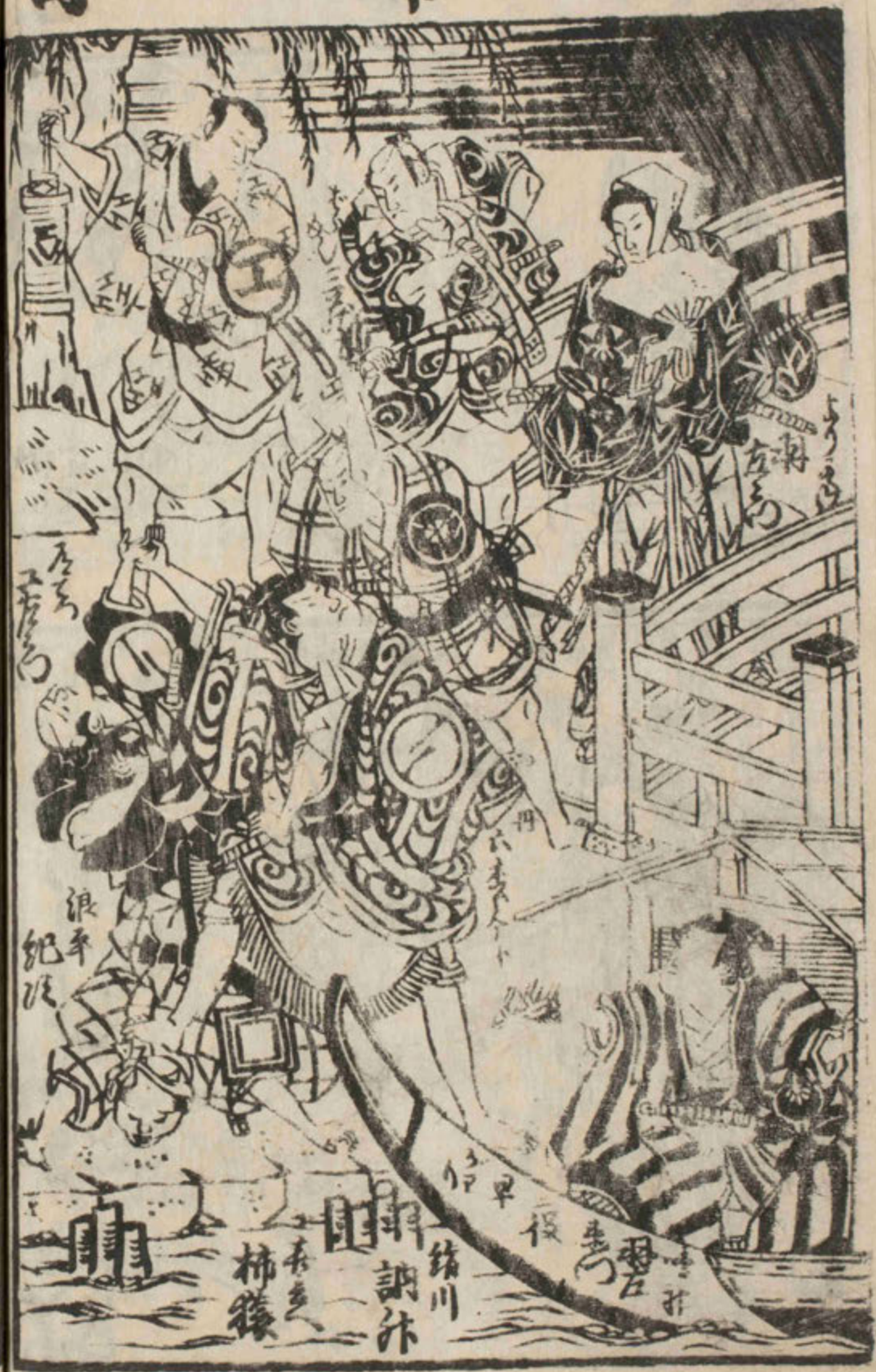

こんずまふとものがたり
狂言綺語


天保十四年
狂言綺語
作者





三幕目



四幕目



八 幕目



六 幕目



結大めんで一ヶ



日ごろ





浄瑠璃

太平記忠臣講釋

大切

長唄はやし中



序切









二番目序幕



中之返



大切



切のへ









天日之目



大諸

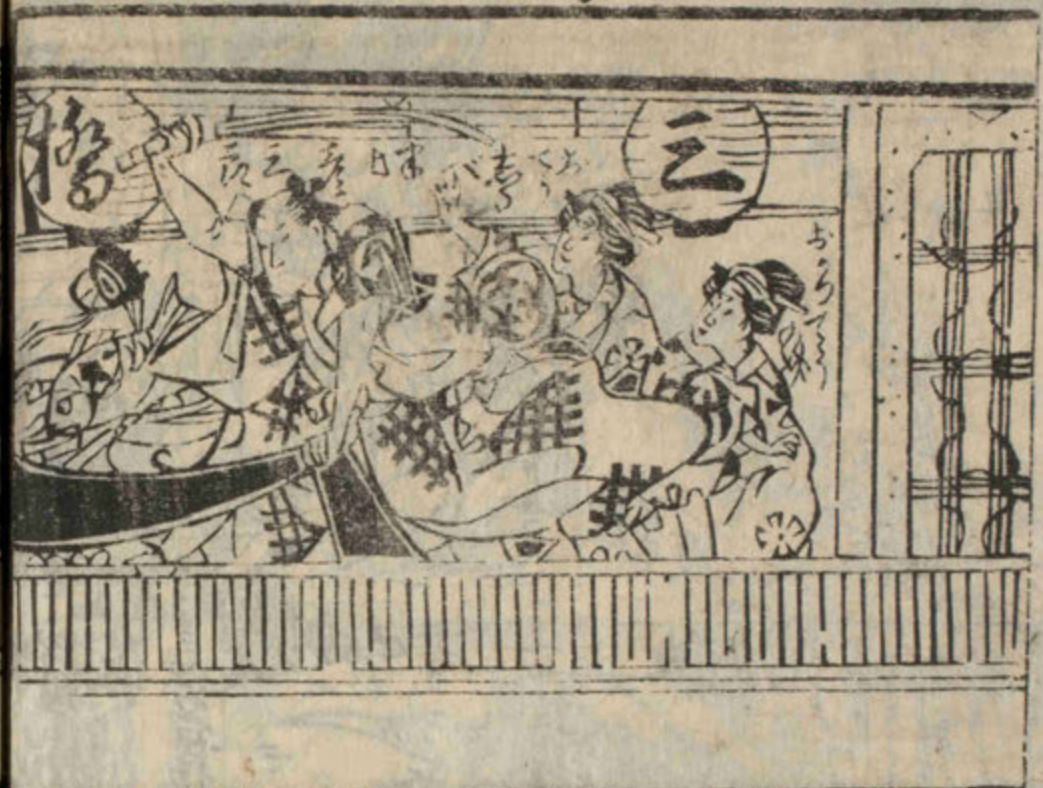


巻中　奉扇　二番目

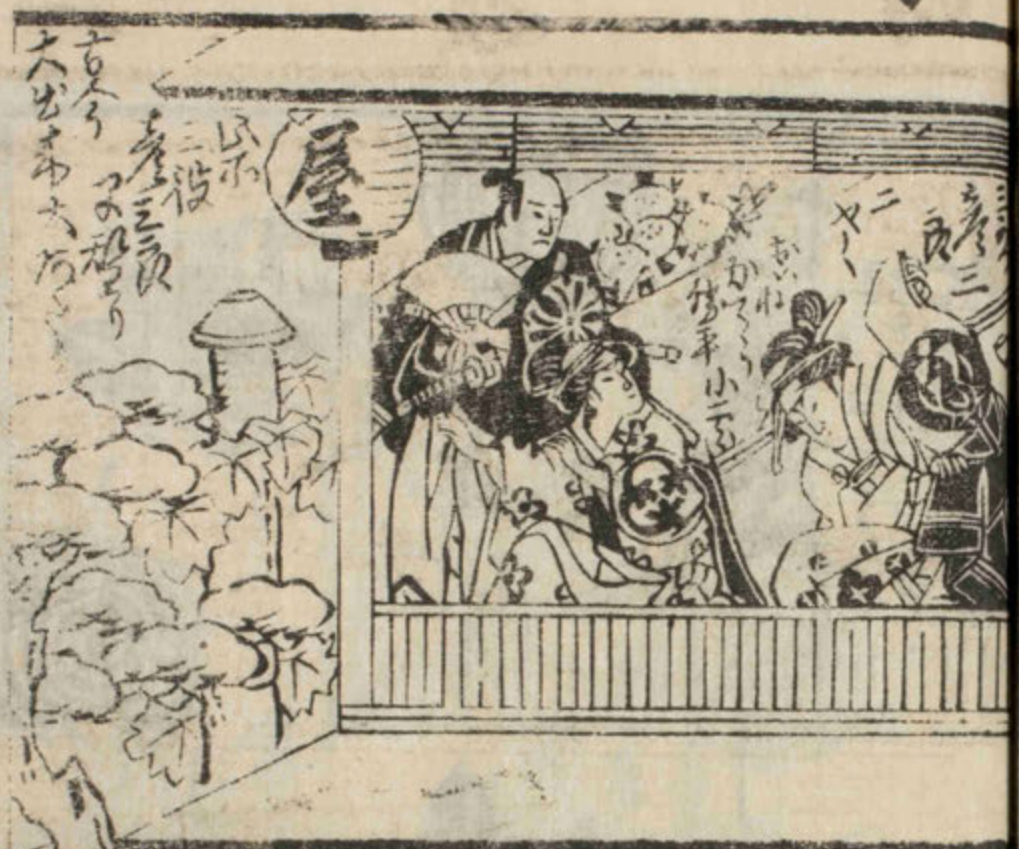


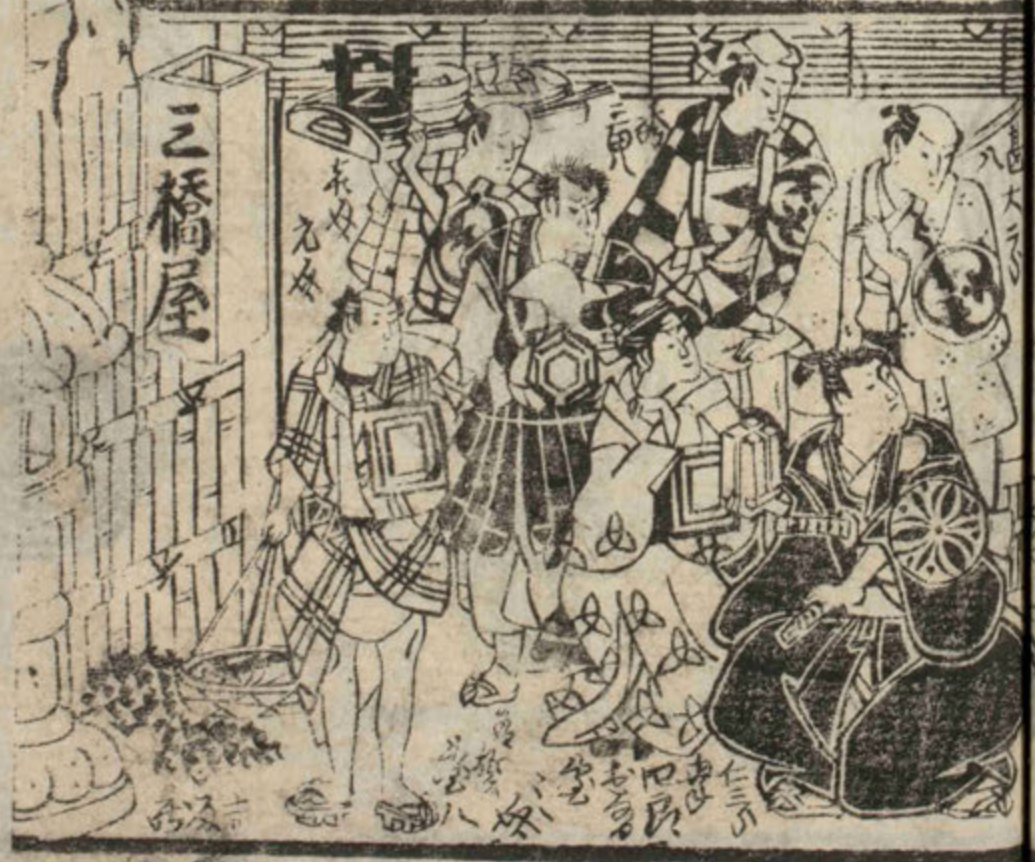
城落　山の段






三條橋




三橋屋

まつきえどがはしやなぎうち
浅草茅町





征韓論



神功皇后



目次



廿二番目 雁金久



久雁金





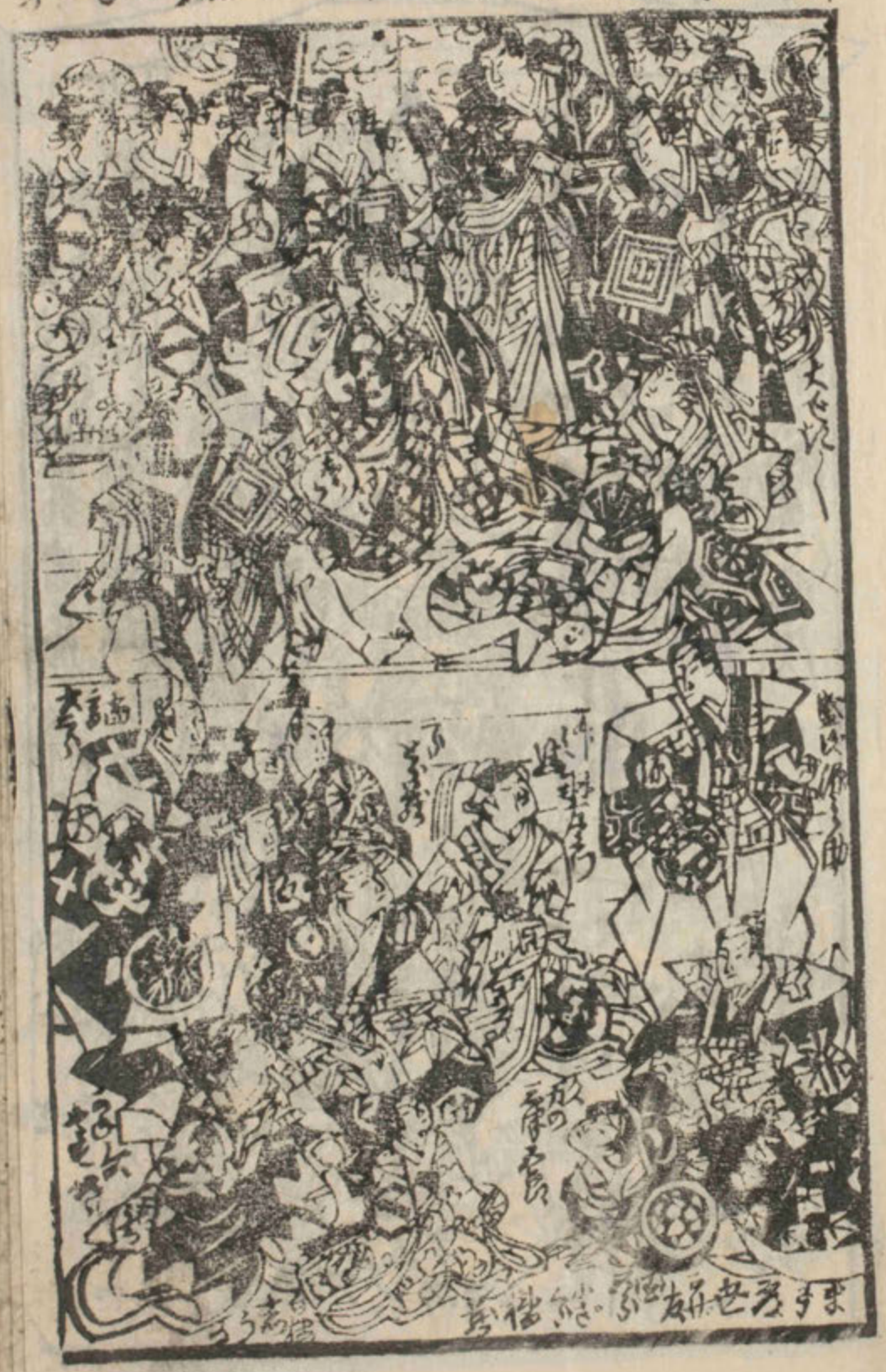




建久勇義軍記 関



建







大





切

狂言

作者


酒池肉林




諸浪人口附並ニ者共
大ぜい村宿
二十人
弥左ヱ門
羽左ヱ門
大成敗右ヱ門
大七郎
乃七郎
元助
市ヱ門
良助
鍾馗
かごかき
六人
四松
八孫六
九助
大次ヱ門


大ぜい
はつる
弥之助
秋
三味線
三
平二三十良





譜



嘉永元申年
新版九月ヨリ

著作

あをとおり
書肆
村田座





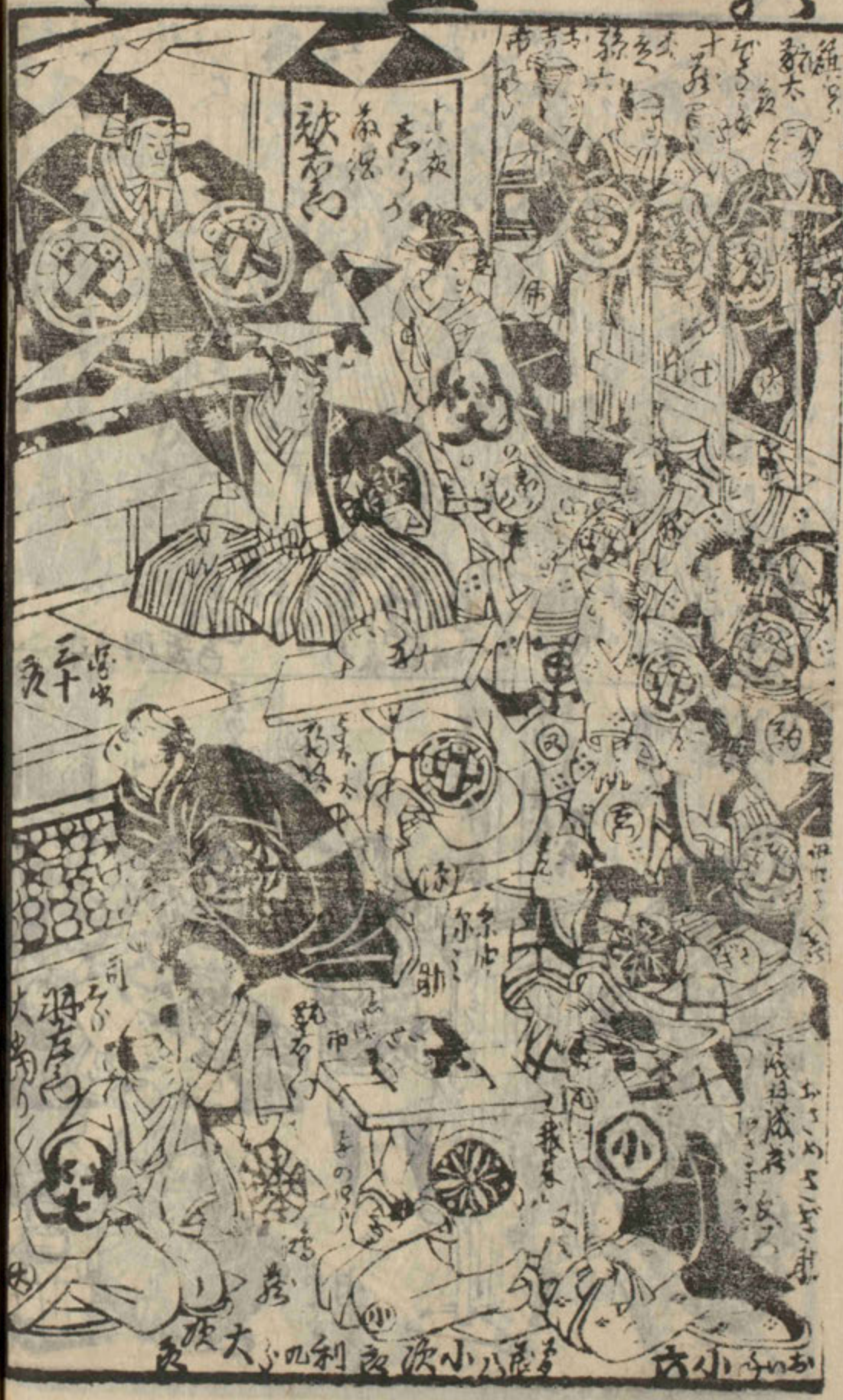












嘉永二酉年
正月十五日

二立目發端



幕開













幕の内



返し









正徳三酉年
八月二日より

緒言

序幕四立



二立目



發端序おわり





幕目





幕目



目

幕



大切



長唄もやし連中


さうもだうよろづちゑのはこ
作者

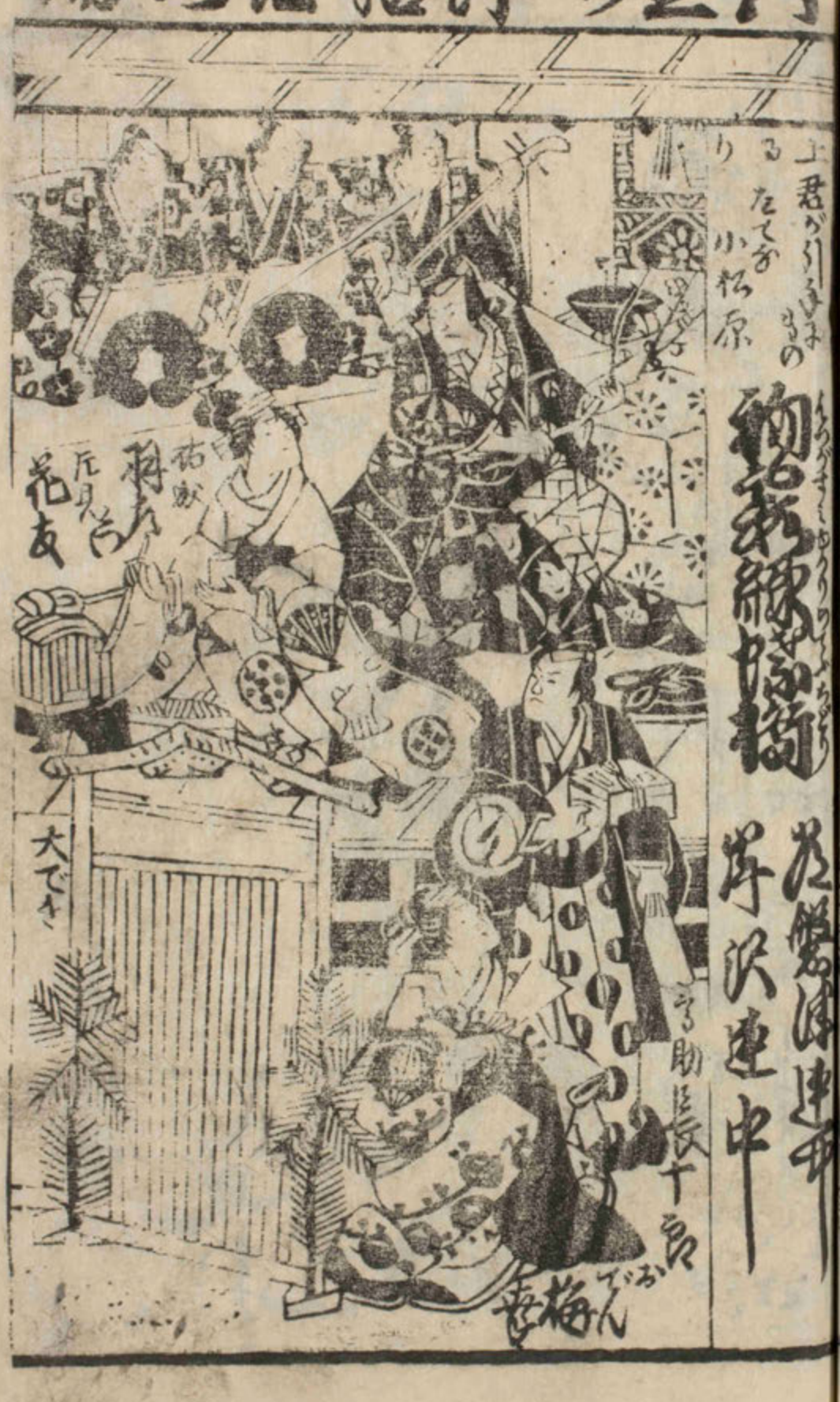

三月三日より
作者



梅の初石寺合星めぐり



梅の猩猩退治



湯治の父行平光源



大磯の対面の場









寛政三年
正月十日より

狂言
仇番

作者
うそつきあくま
かのこうさぎ
野道風青柳硯
吉田諸蔵
市村座

序



幕



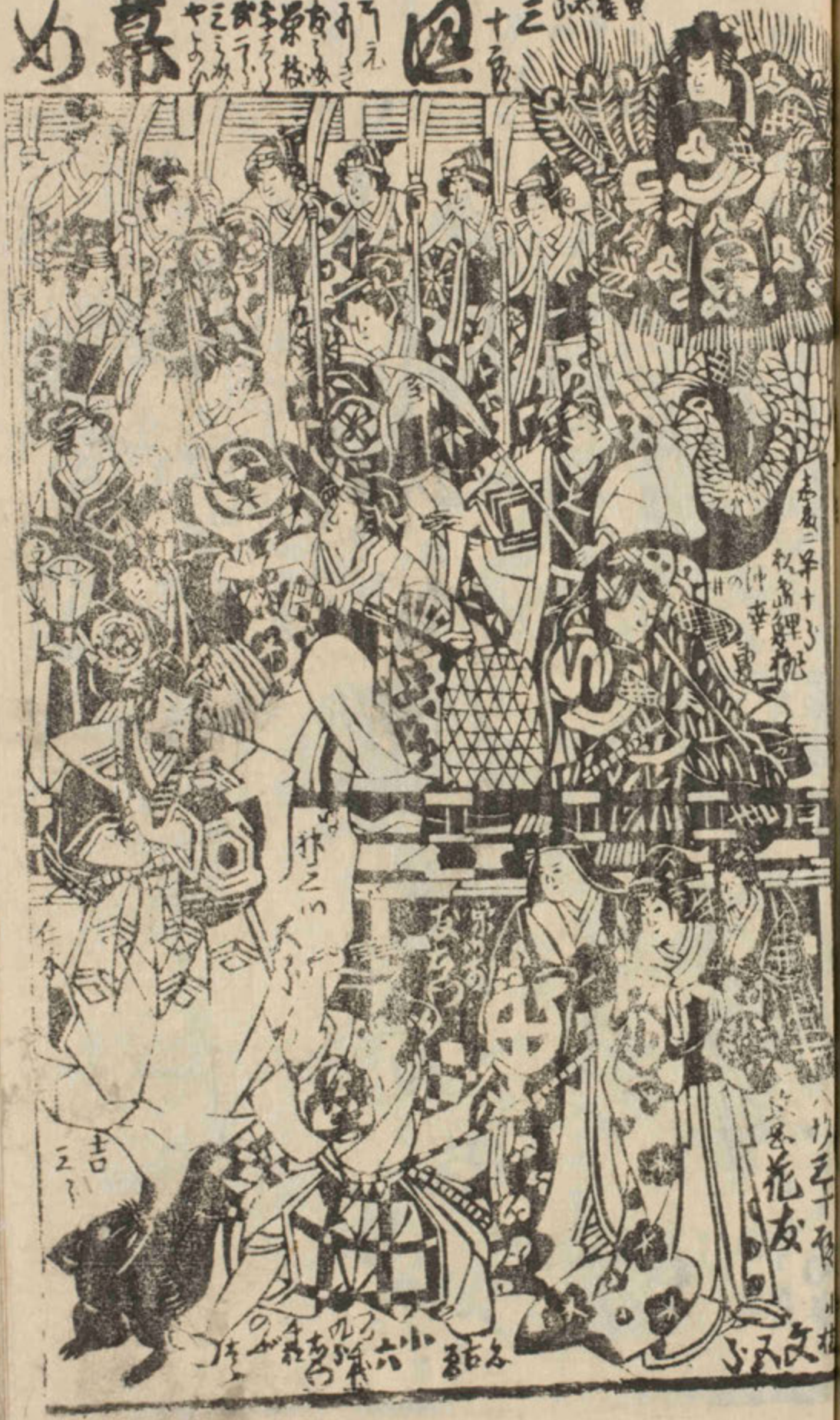




幕の二

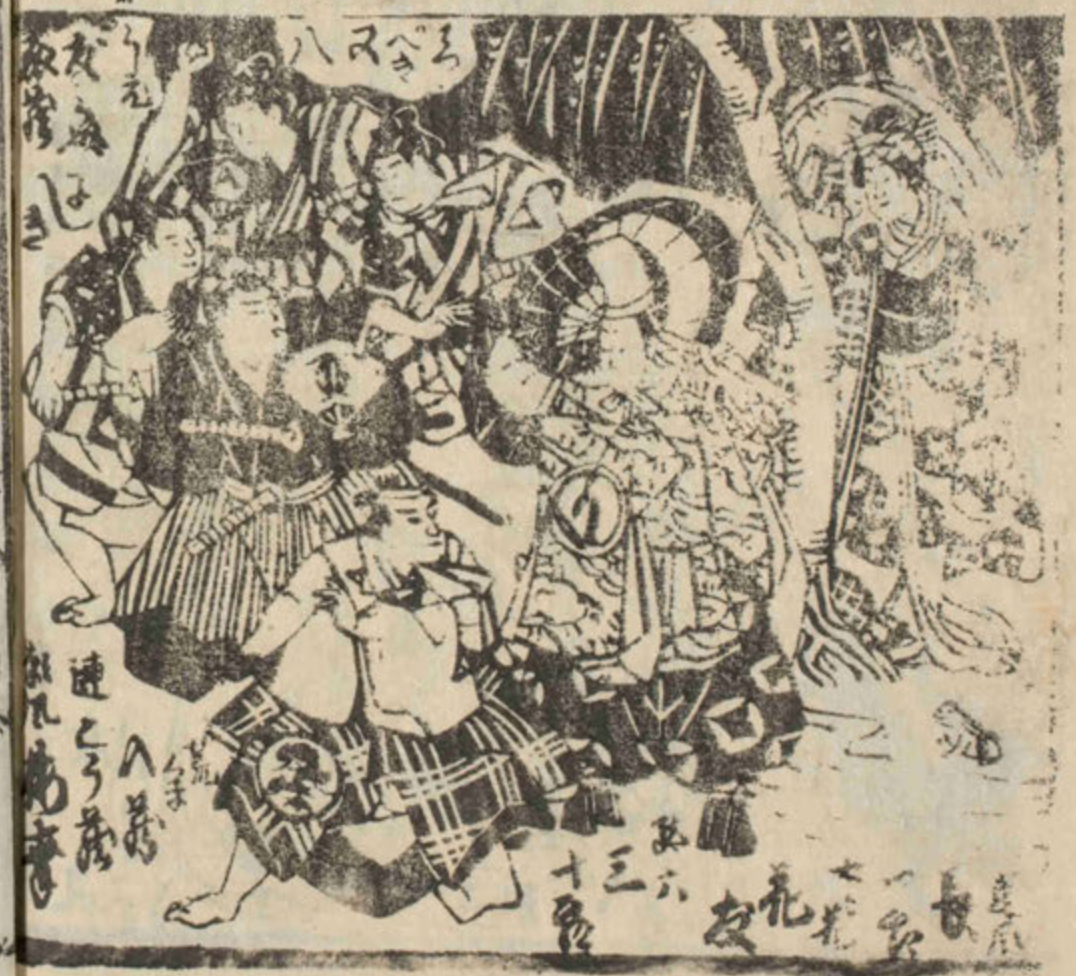


幕の四



中ノ巻　狂言







幕

九幕目



幕目



嘉永二年
三月九日ヨリ







忠臣蔵八段目大寺松切の図



忠臣蔵八段目春長屋浦の図







俵寛嶋物狂の場



大切上演の狂言



源氏

常磐津連中

長唄連中






請水観世音

二幕目





三幕目





富本連中


元結連中





七番目大詰



六番目序幕









三国花見の図



義経弁慶



二條関白公の御三男関白殿ゲの御



四条関白殿ゲ御前勝関士の御





七幕目奥座位返の図





大

